

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000687		
法人名	特定非営利活動法人 敬愛		
事業所名	グループホーム なごやか		
所在地	宮崎県児湯郡高鍋町大字上江1940番地2		
自己評価作成日	平成26年6月6日	評価結果市町村受理日	平成26年8月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajikensaku.jp/45/index.php?action_kouhou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4572000687-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年6月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いっしょに暮らす、いっしょに語る、いっしょに笑う、ここ(地域)でいっしょに暮らそう」という理念のもと、職員はどんな時も利用者のそばに居る存在であり続けることを心がけています。とにかく、笑いの絶えないホームです。利用者一人ひとりそれぞれが、たくさんお喋りし、たくさん笑い、たくさん考え、美味しいものを食べ、できるだけ動き、そんなことを職員もいっしょにしています。なんとなく不安な時もあるでしょう。家族のことを思い辛い時も、悲しい時もあるでしょう。そんな時も側に居ます。そんなことを職員も考えています。ご家族や地域の方も来所されたら笑顔になれるよう、利用者それぞれが、その人らしく過ごせるよう介護しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「いっしょに暮らす、いっしょに語る、いっしょに笑う、ここ(地域)でいっしょに暮らそう」という理念が管理者、職員に共有され、その理念の下にケアが行われている。地域とのつながりも深く、地域に根ざしたホームとなっている。家族形態の急激な変化により、利用者の独居の占める割合が増加している中、理事長、管理者の思いの下、利用者の思いをくみ取り、要望に応えながら笑顔の絶えないホーム作りが、職員と共に地域、家族と協力しながらなされている。職員が介護する人として上位にならないよう、利用者が気兼ねなく穏やかに、それぞれがその人らしく地域の中で日々を過ごせるようにと、共に生活するという意識で支援がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念・方針を作成している。「いっしょに暮らす。いっしょに語る。いっしょに笑う。ここ(地域)でいっしょに暮らそう。」と表し、ホーム内に掲げるとともに、職員の実践の指針となっている。	管理者、職員共にホーム独自の理念を理解し、介護する人、される人という関係を避け、利用者が気兼ねなく過ごせるようにと、いっしょに生活し支援できるよう、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として自治会に加入しており、また、地域のボランティアの方に毎月来ていただき、歌や読み聞かせなどを楽しんでいる。	毎月ボランティアが来訪したり、小学生と登下校の挨拶をするなど、日常的な地域との交流ができ、つながりができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、事業所内の様子や取り組みを説明・紹介している。また、近隣の小学校の登校、下校時に挨拶をしたり、運動会の応援・見学をさせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所内の様子や取り組みを報告、説明をしている。必ず参加者からの意見・要望等をいただき、持ち帰り、ミーティング等で報告。必要に応じて検討し、サービス向上に活かすよう取り組んでいる。	運営推進会議では、家族形態の変化により家族の参加が減少しているが、ホーム独自にスライドショーを利用し、日々の活動を報告している。会議の中では、避難訓練においての意見が出され、地域も協力的に避難訓練を行うなど、サービスの向上に生かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議だけでなく、日頃から町役場担当者とのコミュニケーションをとり、また、利用者にかかる報告・相談等、協力関係を築いている。	介護保険担当者や地域包括支援センターの職員が運営推進会議には必ず参加している。介護保険担当者とは、独居の利用者も増えたため、介護認定の更新、自宅管理などの相談を日常的に行い、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が拘束について理解しており、なるべく拘束をしないよう工夫し対応している。玄関や窓の施錠は、夜間の戸締りの時のみとしている。	毎月のミーティングで話し合い、全ての職員が身体拘束をしないケアについて理解している。夜間のベッド柵を使用する際には、家族の了承を得るための書類も作成し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全ての職員が虐待について理解しており、言葉の虐待も含め、日ごろから話し合い、注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年度の運営推進会議にて、日常生活自立支援事業・成年後見制度について町社会福祉協議会の方に勉強会をお願いした。また、実際必要と思われる利用者・ご家族に町役場担当者等と協力し、支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、運営者、管理者、家族立会いの下、十分に説明し、理解・納得をしていただいている。不安や疑問となるであろう事案については、例を示し、わかりやすく説明し、また何時でも不安や疑問を投げかけていただけるように声掛けしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、家族の要望・意見をお聞きする時間を必ず設け、その内容はミーティングにて報告、検討している。	ホーム便りを作成し、遠方の家族にも送っている。家族からの意見、要望においては、来訪時や随時の連絡時に聞きやすい関係作りができています。意見や要望はミーティングで話し合い、運営やケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のミーティングにて、職員からの意見・要望を聞く時間を設けており、検討している。	毎月のミーティングやカンファレンスにおいて、職員の意見を聞いている。業務についての意見も、職員は代表者や管理者にも言いやすい関係作りができており、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、毎月勤務表作成時には、職員の休みの希望を取り入れたり、また、毎月のミーティング時に意見・要望を聞く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアについての力量を把握しており、研修会等を受けられるよう、その機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会への参加や勉強会等への参加を通じて交流の場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前より、事前調査時に担当ケアマネを介し顔合わせをさせていただき、本人のお話を傾聴し、困っていること、不安なことを把握できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者はもちろん、家族が困っていること、不安・希望などについて傾聴し、ケアプランに反映させるとともに、より良い信頼関係を作るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初の見学や相談時より、その内容に応じた考えられるサービスの全てを提示、伝え、「その時」最適のサービスを選べるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にあるように、日常生活において、協働・共働き、一緒に食事し、話し、笑い、怒り、泣き、楽しく過ごす関係である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を中心に、必要なことを家族と相談しながら、お互いに出ることをする、というような関係を築く努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との関係が途切れないように支援するとともに、縁のある時代・地域・職業などを話題にし、コミュニケーションをとるよう努めている。	地域のニュースを話題にするなど、なじみの関係を引き出すように努めている。家に帰りたい、なじみの店に行きたいなどの要望には、家族の協力などにより関係継続の支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク活動も食事も、テーブル席で皆一緒にしているため、関わりは多く、一緒に楽しんだり、助け合ったり、お互いに見守りあったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や転所時には、面会やお見舞いに伺ったり、また、家族には今まで通り相談に応じることができている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者・家族からの聞き取り調査をはじめ、日々の様子・会話等から情報を把握し、申し送り時やミーティングにおいて検討している。	利用者、家族に職員から関わるように努め、日常的な会話の中から思いや意向を引き出すようにしている。会話から引き出した希望や意向は、メモを取り、ミーティングで話し合い、本人本意となるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前・入所時の聞き取りやその後の関わりの中で知り得た情報も、職員全員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察・記録・申し送り・ミーティング等を通して現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度のミーティングにて、一人ひとりの課題とそのケアについて検討し、ケアプランに反映させている。また、必要に応じて家族や関係者と話し合い、ケアプランに反映させている。	毎月ミーティングやモニタリングで話し合いを行っている。家族には随時連絡を取り、来訪時に要望を聞き出している。変化のある時には随時介護計画を作成し、見直しは3か月ごとに行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの日々の変化・気づき等を記録し、その情報を職員全員で共有し、ケアプランの見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランだけにとらわれず、その状況に応じて、その時必要なケアが出来るよう、柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアの訪問をしていただいている。また、災害時の近隣の協力体制への取り組みもお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所者は、一人ひとりそれぞれの主治医が入所者へ、定期的に受診している。また、必要に応じてホーム内での状況報告をしている。	それぞれのなじみのかかりつけ医に定期的に受診している。基本的には家族が受診を支援しているが、必要に応じてホームが受診支援を行っている。必要に応じて、状況報告を看護師より文書にて報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師がおり、必要な情報を共有しながら、適切な対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、必要な情報の提示をするとともに、入院中の情報も得、出来得る限り早期退院に向け支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時・ケアプランについての面談時等に、家族等にその意向について検討している。また、ミーティング時にも職員間でその対応について検討している。しかし、具体例が無いことから、具体的なマニュアル作りが進んでいない。	ホームとしての方針は、職員にも共有されている。家族への話し合いもその都度行われ、研修会も行い、終末期に向けた取組が行われている。家族における文書も作成され、ホームとしてできる支援に取り組んでいるがマニュアル化が進んでいない状況である。	看取りを行うためのホームとしての取組が行われているが、マニュアル化が進んでいない。今後マニュアル化を進め、より充実した取組が行われるよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に備え、救急対応について勉強はしている。また、夜間の連絡・対応についても周知しているが、実践的な訓練は定期的には出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災訓練に取り組むとともに、地域への協力体制もお願いしている。	毎月防災訓練が行われている。緊急連絡先には地域の方も入っており、協力関係が築かれている。年2回の避難訓練では、地域の方にも声掛けし、地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーの確保はもちろん、プライドを傷つけないよう、その利用者に応じた言葉掛け・対応を心がけている。	日常的な言葉遣いはミーティング等で話し合い、一人ひとりのプライバシーの確保や利用者に応じた対応ができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を遠慮なく表出できるような雰囲気作りに努め、また、本人が希望を表出できるような声掛けに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には、日課に沿って日々過ごしていただくが、利用者それぞれの希望や体調により、それぞれ対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師の訪問があり、利用していただいている。また、起床時や外出時のおしゃれや身だしなみについて、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握しており、摂取状況に合わせて、形態などを工夫している。また、行事にあわせたり、リクエストに応じたり、季節感や彩り等も工夫している。	調理専門のパートが、月～金まで出勤している。一人ひとりの好みを把握し、状態に応じて食形態も変え、季節や行事に合わせたメニューの変更もある。職員も一緒にテーブルを囲んでいる。利用者は、状況に応じて準備を手伝うなど、食を通じた楽しみながらの支援をホームは工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量のチェック、必要に応じて水分量のチェック等を実施している。また、咀嚼・嚥下に応じた食事形態の工夫・介助をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、毎食後、一人ひとりそれぞれに応じた口腔ケアを実施している。		

宮崎県高鍋町 グループホームなごやか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、全ての利用者がトイレを利用し、排泄できるように支援している。基本的には、尿意・便意優先であるが、排泄時間をチェックし、時間誘導もしている。	排せつチェック表を利用し、利用者のリズムを把握している。日中は全ての利用者に対してトイレ誘導を行い、自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとり排便チェックしており、個々に応じ取り組んでいる。食事内容の工夫や運動、下剤の使用も考えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせての入浴を大切にしなければならないが、職員のローテーションの都合で入浴日・時間を決めている。ただ、入浴に当たっては、羞恥心・プライドに注意を払い、入浴拒否の方にも声掛け等工夫し、入浴していただいている。	職員の都合により入浴時間は決められているが、利用者は拒否をすることなく入浴している。冬場、入浴されない利用者においては、足浴なども行い、入浴を楽しめる支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には日中は覚醒し、夜間はぐっすり睡眠をとることが出来るように支援している。それぞれの体調に合わせ、午睡、運動なども考えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬についてほぼ理解しており、服薬支援も統一している。また、薬の変更があった時は、連絡ノートに記載し情報の共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	清掃や洗濯物たたみ、テーブル拭き等の手伝いをしていただいたり、行事や来客時の挨拶をしていただいたり、それぞれの得意分野で活躍していただいている。また、食事やレク活動についてはリクエストに応じたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気に応じて、外気浴・日光浴・散歩等をしている。行事としてコスモス見学へは家族の参加をいただいている。また、近隣の幼稚園・小学校の運動会の応援にも出かけている。	天気がよい日は、あずま屋で日光浴を行い、散歩にも出掛けている。年に1回、コスモス見学に出かけたり、小学校の運動会の応援に行くなど、家族や地域と協力しながら外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭の管理が出来る方はいない。 ホームのほうで家族よりお金を預かり、必要に応じて使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ、電話の取り次ぎをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、気持ちよく過ごしていただけるように清掃し、季節を感じられるように花や飾り付けをしている。また、利用者の作成した作品なども飾っている。	日中は、共用空間で利用者は過ごしている。ホームは利用者が作成した季節に応じた飾り物などを飾り、季節感を出すよう工夫している。テレビの周囲にソファを設置するなどし、利用者が日中、居心地よく過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごすことも、テーブル席で過ごすことも、ソファでTVを見て過ごすことも、庭に出て日光浴することも、自由に出来るよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、それぞれが使い慣れたものを持ち込んでおられ、壁には誕生日の色紙などを飾っている。	居室には、それぞれの表札が飾られている。テレビを持ち込んだり、好きな写真が飾られるなど、利用者それぞれが居心地よく過ごせるような工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーであり、手すりも設けている。また、トイレも自室からすぐに行けるよう4ヶ所設けてあり、車椅子対応のトイレもある。 居室入り口には、表札を掲げている。		